

一般社団法人 京丹後青年会議所
2013年度スローガン

「挑戦」を楽しもう!

～その一歩が人を成長させ人をつなぐ～

社団法人 京丹後青年会議所は、10月1日をもちまして「一般社団法人 京丹後青年会議所」へ変わりました。今後とも何卒よろしくお願致します。



一般社団法人 京丹後青年会議所

2013年度理事長 **三木健徳**

「2013年を振り返って」

2013年度 一般社団法人 京丹後青年会議所は、「挑戦を楽しもう!」の一歩が人を成長させ人をつなぐ」のスローガンのもと、地域の発展に貢献できるような年間活動してまいりました。メンバーは、地域のリーダーとしての自覚と気概を胸に新たなことに挑戦し、様々な活動を通じて多くの人々とのつながりをつくることのできた。その出会いの中から気づきや学びを得て、大きく成長できたのではないかと思います。

事業を振り返って見ますと、6月には丹後の各地を回りながら歴史や文化を子ども達に伝えることで郷土愛を育んでもらうため、「小学生ウルトラクイズ大会」を行いました。地域の多くの方々にご協力を頂きながら共に取り組んだ結果、6回目を迎えることができました。今年も、初めての試みとして、個人での募集を行いました。他校の子ども達とグループをつくらせたことで、全く知らない子ども達同士で交流することができ、新たな友情も芽生えました。

また、10月には「京丹後青少年未来議会」と題し、京丹後市内の中学校・高等学校の生徒達にまちの様々な問題点を考えて頂き、京丹後市役所の議場で市長に対して直接意見を伝える議員体験をして頂きました。ご協力頂いた生徒達には、まちづくりや市政に関心を深めて頂いたものと思います。また、この事業はケーブルテレビを通じて京丹後市内に発信され、市民の皆様にも市政に対する意識の向上につながったと考えております。

若者らしく、常に前向きに新しいことに挑戦すること、失敗も沢山ありましたが、新たな気づきや学びもあり、多くの方とのつながりもできました。メンバーそれぞれが自分の成長を感じることができた素晴らしい一年間でした。これもひとえに私達の活動にご賛同頂き、お力添えを賜りました地域の方々のお陰だと感謝しております。

48年間地域に根ざして活動してきたこの青年会議所を、今後も必要とされる団体として存続すべく、メンバー一丸となり努力する所存です。どうぞ来年も今年と変わらぬご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

JC PRESS 年末号

「シリーズ」つなぐ・つながる vol.3

京丹後市丹後町間人地区
子どもを守る会
前川笑子様
相見美子様
中江美津枝様

一般社団法人 京丹後青年会議所では、このまちで活動をされている個人や団体の皆様と連携を図り、手を取り合いながら共に活動して参りたいと考えております。そこで広報・会員拡大委員会では、地域のひととつながりの更なる強化がより良いまちづくりにつながることを考え、私達と同じ思いで活動されている地域の様々な方に、その活動の様子や想いを伺って参ります。そして、その様子を京丹後青年会議所新聞で広く発信し、今後の地域コミュニティのあり方を市民の皆様と共に考える一つのきっかけにしたいと考えております。

京丹後市のボランティア活動について

京丹後市の各小学校区では、PTAのほか、各地の自治会組織や老人会などの各種団体による、地域防犯活動が行われています。その中の一つとして、登下校時の防犯パトロールや立ち番などの地域防犯活動があり、京丹後市内には現在約40の地域ボランティア組織があります。今回は、その中の一つ、京丹後市丹後町間人地区で子どもを守る会として小学生の登下校を8年間も見守っておられる前川笑子さんと相見美子さんと中江美津枝さんにお話を伺いました。



校の見守りをしていました。始めた頃は参加する人も少なかったですが、現在では、老人会の方が中心となり、婦人会の方も含めたメンバーで、毎日子ども達の登下校を見守っています。最初の頃は、恥ずかしいのか挨拶をしても返ってこない子もいましたが、こちらが毎日声をかけ続けると、徐々に元気な挨拶が返ってくるようになりました。その時は、「この活動をしていて良かった」と思えますね。

形を変える地域の姿

昨今、この京丹後市でも人口減少や少子高齢化など様々な要因で地域社会が抱える問題は深刻になってきています。私達が暮らす間人地域でも、昔に比べたら子ども達のいる若い世帯が減っている一方で、独り暮らしや老夫婦だけのお年寄り世帯が増えてきています。子ども達の数が減り、地域から子ども達の元気な声が徐々に聞こえなくなっていくのはとても寂しい気がします。特に最近はお外で遊ぶ子どもが減り、子ども達と地域の大人達がふれあう機会が減ってきているように感じます。昔は、釣りをしたり広場

活動のきっかけ

平成18年に老人会の方から声かけがあり、この活動を知りました。私達のように年々老いても、自分達ができることで何か地域のためになることがあればやってみようという思いで協力させて頂くことになりました。最初の頃は、自宅の前が通学路になっていた方や、買い物などの家事の途中にお手伝いできる方が中心となり、子ども達の登下

校の見守りをしていました。始めた頃は参加する人も少なかったですが、現在では、老人会の方が中心となり、婦人会の方も含めたメンバーで、毎日子ども達の登下校を見守っています。最初の頃は、恥ずかしいのか挨拶をしても返ってこない子もいましたが、こちらが毎日声をかけ続けると、徐々に元気な挨拶が返ってくるようになりました。その時は、「この活動をしていて良かった」と思えますね。

で野球をしていた子ども達もいて、それを地域の大人が誰となく見ておたり、子ども達に声をかけたりしたものです。しかし、最近子ども達も遊び場も減り、大人達も子ども達が遊ぶ姿にあまり興味を示さなくなっているのではないかと思います。子ども達を取り巻く環境もここ数十年で大きく変わり、地域のひとと人のつながりも以前よりも希薄になってきているように感じます。

子ども達の笑顔で元気をもらおう



この地域では独居老人も多く、家族と住んでいても年を取ると外に出る機会も少なくなり、地域の人達とふれあう機会も減ってきます。でも、この活動で毎日決まった時間に外へ出て、学校へ向かう子ども達の屈託のない笑顔を見ながら元気に挨拶をしていると、こちらも元気をもらえます。私達もこの活動を通して、日常の中で笑顔になれる時間ができたことはとてもありがたく、今では生きがいになってます。地域の方からは「子どもがしっかりと挨拶できるように頑張った」「皆さんが見守ってくたさるので安心して学校に行ける」「いつもありがとうございます」など多くの感謝の言葉を頂きます。また、毎日同じ時間に同じ場所に立って子ども達を見送るので、「昨日はいなかったけど、今日は行きました」と子ども達の親御さんからも声をかけてもらうこともありました。このように、子ども達を見守るといふことを通して、世代を超えて地域の人達とコミュニケーションが図れるなんてとても素晴らしいことだと思います。

人がつなぐ地域の絆

地域の中での人と人のつながりが希薄になってきている時代だからこそ、このような活動が益々大切になってくるのだと感じます。大人達が協力しながら、地域全体で子ども達を見守ることができると、子ども達も安心して

登下校はもちろん、外でも元気よく遊べ、健やかに成長できるのだと思います。それには、「地域の宝である子ども達のために」地域の大人達が世代を越えて交流し、つながりをより一層深めることも必要だと思います。今後は、私達一人ひとりが地域ぐるみで子どもを育てるといふ観点からも、地域コミュニティ形成の大切さについて今一度見つめ直し、行動に移していくことが重要だと思います。

一年間を振り返って

今年一年間、広報・会員拡大委員会では、地域のひととつながりの更なる強化がより良いまちづくりにつながると考え、私達と同じ思いで活動されている地域の様々な方に、その活動の様子や想いを伺うことで、今後の地域コミュニティのあり方を市民の皆様と共に考える一つのきっかけにしたいと考えて取り組んで参りました。取材にご協力頂いた皆様には、子育て、防災、防犯と目的は違えど、地域を想う強い気持ちがありました。その地域に住み、地域を想う人々がつながりを持ち、小さなことからでも何か行動を起こすことで、人々の結びつきはより一層強くなり、延いては地域の発展へとつながるのではないのでしょうか。自分のふるさとのため、子ども達のため、同じまちに住む私達が手を携え、まずは一歩を踏み出しましょう。一年間、ご覧頂き誠にありがとうございました。

